

観察会世話人

吉田悦子

etsuko yoshida

総会

開催日：2000年7月9日(日)

場所：風土記の丘

事務局より2000年度の開催行事、幹事、会計の各提案を行い、総会参加者の圧倒的多数の賛成を受けて、全ての案が承認されました。また、

来年は談話会創立10周年を迎えます。記念行事や会報記念号の提案を会員の皆さんから募集していることが報告されました。

第27回観察会

日時：2000年7月9日(日)

場所：風土記の丘

講師：吹春俊光

参加者数：60名

採集種数：61種（採集された種数の目安として、会長のメモより名前がついたものの数です。以下同）

どんなきのこが観察できるのか期待に胸を膨らませ参加しました。アセタケの小林さん、京都の波部さんや富士の麓の深田さんとも再会しました。お天気にも恵まれ、きのこもイグチ類を中心にたくさん観察することができました。相京さんがオニフスベを近くで採取してきたので、オニフスベを抱えて記念撮影もしました。

きのこ記録(フィールドノートから)

アイゾメクロイグチ、アオアシアセタケ、アカカバイロタケ、アカヤマドリ、イロガワリ、ウコンハツ、ウラグロニガイグチ、オオキヌハダトマヤタケ、オオホウライタケ、オキナクサハツ、オニイグチ、オニフスベ、カレバキツネタケ、ガンタケ、キアミアシイグチ、キイロイグチ、キカラハツモドキ？、キニガイグチ、キヒダタケ、クリイロイグチ、クリカワヤシャイグチ、クロアザアワタケ、クロタマゴテングタケ、クロチチダマシ、クロハツモドキ、コガネヤマドリ、コテングタケ



モドキ、コバヤシアセタケ、サケツバタケ、ザラツキキトマヤタケの仲間、シラゲアセタケ、シロオニタケ、シロハツ、ダイダイガサ、タマゴタケ、チチタケ、ツエタケ、ツチグリ、ツルタケ、ツルタケ白色型、テングタケ、ドウシンタケ？、トキイロヒラタケ、ドクツルタケ？、ナカグロモリノカサ、ニガイグチ属、ノウタケ、ヒメカバイロタケ、ヒメキシメジ、ヒメコナカブリツルタケ、ブドウニガイグチ、ベニヒダタケ、ヘビキノコモドキ、ヤマドリタケモドキ

第28回観察会

日 時：2000年9月30日(土)
 場 所：泉自然公園
 講 師：滋賀大名誉教授 本郷次雄先生
 参加者数：68名
 採集種数：72種

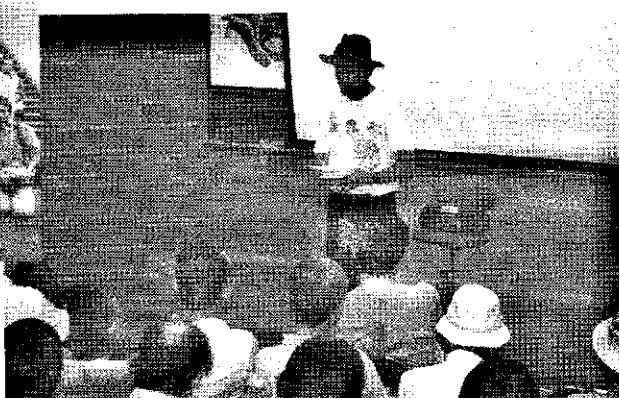
恒例の本郷先生をお迎えしての観察会です。それからアメリカの写真家でありミュージシャンでもあるティラー・ロックウッドさんもゲストとして参加されました。

その他に硬質菌の服部力さん、アセタケの小林孝人さんと講師陣も充実した観察会となりました。遠く沖縄から島袋さん、仙台の常連、安藤さんも参加され、賑やかな顔ぶれとなりました。きのこの同定もほぼ終了した頃、雨が激しく降り出しました。観察会の後、研修室でティラーさんのスライドショーが行われました。ティラーさんはきのこを「森の中の宝石達」ととらえ、世界中を旅しているとか。スライドショ

はクラシック音楽をバックにゆったりしたご本人のナレーションも入っており、独特のライティングとアングルで撮られたスライドは「伊沢流？」に慣れ親しんできた私にはとても新鮮でした。その後、新種の発表をされている高橋春樹さんのスライドも見せていただきました。高橋さんは自宅できのこの「飼育」をされているそうです。興味深いお話をしました。夜にはこれも恒例の懇親会が賑やかに行われました。今まで会場だった「銀河高原ビール」は無くなってしまい、今年は「ベジタブル」で貸し切り飲み放題で行わされました。近田さんとティラーさんのバイオリン演奏もあって、楽しい懇親会でした。



2000年10月1日、千葉市泉自然公園、
中心が本郷先生、左端がティラーさん。



鑑定会は、例年と異なりティラーさんのスライドを見る屋根のある会場の近くで開催しました。鑑定会直後、大雨となり大助かりでした。



ティラーさんのバイオリン。
懇親会会場では、近田幹事に持参いただいた電気バイオリ
ンでアイリッシュ民謡を演奏していただきました。

Treasures from the kingdom of the fungi

ティラーさんのサイトのURL
<http://www.fungiphoto.com/>



ティラーさんと近田の白熱(?)のセッション

採集会あとの懇親会。千葉市内ベジタブルで。ティ
ラーさん、本郷先生、服部先生が見える。今回通訳を
して頂いた会員の澤田さんに感謝いたします。



きのこ記録(フィールドノートから)

アオゾメタケ、アカキツネガサ、アカチャツエ
タケ、アミアシイグチ、アミガサホウライタ
ケ、イロガワリ、ウスヒラタケ、ウズラタケ、
ウチワタケ、ウラグロニガイグチ、オオキヌハ
ダトマヤタケ、オオキヌハダトマヤタケの仲間
2種、オオツルタケ、オキナクサハツ、オニイグ
チモドキ、オニタケ、カレバキツネタケ、カワ
ウソタケ、カワラタケ、カワリハツ、ガンタ
ケ、キアシグロタケ近縁種、キイロイグチ、キ
シメジ、キショウゲンジ、キッコウアワタケ、
キビダタケ、クロアザアワタケ、クロハツ、ク
ロハツモドキ、ケショウハツ、コガネヤマド
リ、コバヤシアセタケ、コフキサルノコシカ
ケ、ザラツキキトマヤタケ、サワフタギタケ、

シロテングタケ、シロハツ、スジウチワタケ、
スミゾメヤマイグチ、タマゴテングタケモド
キ、タマチョレイタケ、チチアワタケ、チャカ
イガラタケ、チャヌメリカラカサタケ、チョウ
ジチチタケ、ツエタケ、ツチナメコ、ツヤウチ
ワタケ、テングタケ、ナラタケモドキ、ニオイ
ワチチタケ、ニガクリタケ、ヌメリカラカサタ
ケ属、ネンドタケ(広義)、ハイイロイタチタ
ケ、ハイカグラテングタケ、ヒトヨタケ、ヒメ
カバイロタケ、ヒメキシメジ、ヒメコウジタ
ケ、フウセンタケ属、フクロツルタケ、ブドウ
ニガイグチ、ホオベニシロアシイグチ、マンネ
ンタケ、ミドリニガイグチ、ヤブレベニタケ、
ユキラッパタケ

第29回観察会

日 時：2000年10月14日(土)

場 所：船橋県民の森

講 師：吹春 俊光

参加者数：44名

採集種数：46種

当初の予定では市原市民の森で開催するはずでしたが、どうしても市民の森の使用許可が下りず、急遽船橋県民の森に変更しました。混乱もなく無事開催することができ、ほっとしました。動植物採取禁止が当たり前の自然公園で、採取しなければ同定できない観察会開催の難しさを感じました。この時期、船橋県民の森での観察会は初めてです。きのこは出ているのかとちょっと不安でした。同定会場にはそれでもたくさんのかきのこが並びました。しかし、名前の付かないきのこが多く、少し欲求不満な感じです。お昼には相京さん達が調理したきのこ汁が振舞われました。ハタケシメジに混じってホコリタケがブカブカ浮かんでいました。美味しかったです。今回もアセタケについては、小林孝人さんに教えて頂きました。テングタケ属の同定に御協力頂いた小田貴志さん、どうもありがとうございました。

きのこ記録(フィールドノートから)

アオアシアセタケの仲間、アカチャツエタケ?、ウコンハツ、ウスヒラタケ、ウラムラサキ、オニタケ、カブラアセタケ、カワラタケ、ガントケ、キショウゲンジ、キツネノカラカサ属、キヌハダニセトマヤタケ、クロハツ?、クロハツモドキ、ケショウハツ?、サクラタケ、サマツモドキ、シロオニタケ、シロニセトマヤタケ、スミゾメヤマイグチ、ダイダイガサ、チシオタケ、ツエタケ、ツチナメコ、ツルタケ、テングタケ、テングタケダマシ、テングタケ属



観察会と鑑定会の後。お話をしているのは、今回原稿を書いていただいた毛利さん。

手の形がオニフスペであるのに注意。

(コトヒラシロテングタケ *Amanita kotohiraensis* と判明)、ドウシンタケ、ドクツルタケまたはシロタマゴテングタケ、ナカグロモリノカサ?、ナラタケ類、ニガクリタケ、ノウタケ、ヒメカバイロタケ、ヒメコナカブリツルタケ、フクロツルタケ、フミヅキタケ、ヘビキノコモドキ、ホオベニシロアシイグチ、ホコリタケ属、マンネンタケ、ミキイロウスタケ、ミドリニガイグチ、ムラサキシメジ、モリノカレバタケ属、ユキラッパタケ